

川柳 さいたま



タイミングと（こころ）

願法みつる

仲間と久々のゴルフを楽しんだ（つもりだった）。しかし馴染んだ筈の運動神経も、コース半ばでリズムが崩れだし、あとは苦痛であった。今更スコアを求めるプレイではないものの、矢張り悔しかった。翌日、考えた。そして気が付いた。（遅い気付きである）。

体内の骨格や筋肉を円滑に作動させる運動神経が、硬化していたことで、瞬発へのタイミングが崩れていることが原因だった。筋肉は、緊張の状態からは決していい仕事は出来ない仕組みになっているらしい。

素早い反応が求められる各種運動競技の場面では、その現象が顕著である。そう考えると、相撲の立合いで、幾度か仕切り直す場面の意味も理解できてくる。

野球の打者が体の各所を揺すっているのも同じ理屈だろう。硬直状態からは、良い結果が得られない。

人間個人の活動や生き方でのリズムやタイミングの取り方にも、同じ視点が通じるように思える。自由闊達を良しとする川柳活動にも適応できそうだ。

がりがりこちこちな組織論や感情論を持ち込んだのは、川柳創作や鑑賞の有り様が歪められる。組織も人も我執を離れて、フアジーな姿勢でリラックスした状態が好ましいと言えるのではないだろうか。

七月号 目次

| | | |
|-----------------------|---------|----|
| わたしの好きな句 | 表紙 | 2 |
| 巻頭言 タイミングということ | 願法みつる | 1 |
| 彩玉集——同人吟 | 文・今村 寿子 | 2 |
| 古丘の世界 | 願法みつる選 | 5 |
| 雑詠 | 石田 正則 | 6 |
| 映像川柳 | 松田重信選 | 6 |
| 七七句 | 野川 清 | 15 |
| 私の七夕 墨黒々と | 鈴木 誠子 | 19 |
| 故里の七夕祭り | 小松 召子 | 20 |
| ふるさと紀行 夢はいまもめぐりて | 小高 啓司 | 21 |
| 交替鑑賞（六月号より） | 加藤孤太郎 | 22 |
| 初歩添削講座「雨」雑詠 | | 24 |
| 題詠 「炊 事」 | 原名 幸雄 選 | 28 |
| | 三村 悦子 選 | |
| | 西松 忠義 選 | |
| さいたま六月句会 | | |
| 俳句誌から拾う 十智庵主人 | | 30 |
| 「さいたまと七七句」 | 加藤孤太郎 | 35 |
| インフォメーション | | 36 |
| 編集さろん | | 38 |
| 句会案内 | | 4 |
| 表紙（題字・清水 美江 写真・千葉 古丘） | 表紙 | 3 |

平成26年

7 月号 (No.656)

日川協加盟